３．麻生　渡氏（一般財団法人九州オープンイノベーションセンター　最高顧問・元福岡県知事）

「北九州市が持つポテンシャルを生かして、力強く市民を牽引していってほしい」

麻生　渡（あそう　わたる）
北九州市出身。
京都大学法学部卒業後、通商産業省（経済産業省）入省。商務流通審議官や、特許庁長官、財団法人中小企業総合研究機構顧問を経て、1995 年４月より福岡県知事を４期、2005 年より全国知事会長を兼務（三期６年）務め、2011 年４月退任。福岡空港ビルディング株式会社 代表取締役社長、学校法人福岡工業大学　最高顧問、第一交通産業株式会社 顧問等を歴任。現在は一般財団法人九州オープンイノベーションセンター 最高顧問、新しい結婚応援運動 JUNOAL 最高顧問。

「北九州空港は有利な環境にある」

福岡空港は 2,500 メートルの滑走路を作ろうとしていますが、それでも受入増は 20%程度です。もう少し増加する可能性もありますが、想定されるような航空需要が福岡空港に増加すれば 20 年ももたずにまたパンクするでしょう。その時は北九州市に分担してもらうしかありません。

福岡市内の中でも、将来は佐賀空港（2,000 m）と連携すべきという人もいますが、高速鉄道（西九州新幹線）が空港を通らないルートにしてしまったことに加え、北九州空港は 3,000 メートル化で断然有利になります。

北九州空港の良いところは、空輸に加え、海上輸送も使えることです。実は、海上輸送を使えることは北九州空港の将来にとって、とても大きな力になると考えています。

北九州空港と福岡空港を繋ぐアクセスは、筑豊経由の高速鉄道を作るのが一番良いと思います。そうすると筑豊の活性化にもつながるのです。これは、私が知事の時に研究したことです。

「容積率の緩和は積極的に行うべき」

福岡市の天神ビックバンへ対応する形で、小倉と黒崎で容積率を緩和すると聞いていますが、容積率を 600%から 800%に緩和する、というのは規模として小さいと感じます。

200%の緩和は、福岡市だと、大きな意味があるので変化が起きますが、小倉では大きな変化は起きないのではないでしょうか。だから、もう少し大きな緩和をするべきでしょう。

小倉駅前も小倉城口に関しては容積率が低いし建物も古いです。一方の新幹線口も、大きな施設はたくさんありますが土地を活用できていません。そこを大胆な規制緩和して活性化させるべきでしょう。

「北九州市にとって半導体産業は重要」

熊本ばかり半導体で話題となっていますが、北九州市も半導体産業は十分あります。半導体関連の組立工場は確かにないかもしれませんが、それを支える部品工場や薬品工場はたくさんあります。だから、半導体は北九州市の非常に重要な産業の一つで、北九州市も半導体基地であると言えます。

半導体の組立工場は熊本等に進出することになりましたが、半導体産業は今後とも北九州市の基幹産業として発展させていくという意思表示をしないといけません。

北九州市が半導体産業を推進する方法としては、半導体産業をつなげて半導体ネットワークとし、この約 100 社で協議会等を作ると良いでしょう。北九州市に半導体産業が集積している事が外から見えて、企業も北九州市も「半導体をやっているのだ」という状態にすることが大切です。北九州市の半導体産業を内外に周知して、応援してあげるべきでしょう。

「『企業発ベンチャー』に勝機がある」

ベンチャーの今の作り方は 3 種類あります。1 つ目は企業発ベンチャー、2 つ目は大学発ベンチャー、3 つ目はスタートアップです。

私は企業発ベンチャーに着目しています。企業発ベンチャーは企業内で色々研究し、一部門などで温めておき、タイミングを見計らって事業性を見出すことができれば別会社を興すということをしています。

例えば安川電機はアイキューブを設立し、中小企業投資等も行っています。昔、富士電機から富士通ができたし、NTT から派生した NTT ドコモも良い例でしょう。

そのように、会社が分かれて結構大きくなるケースがあります。実は、今、北九州市の企業はどこも「このままじゃだめだ」と一生懸命です。何か新しいことをやらないといけないと考えて、随分模索し、企業内で研究したり、大学に足を運んだりしています。このように既に取り組んでいる事業を形にして、別会社を興す方が、遥かに成功の確率が高いと考えています。だから、企業発ベンチャーを北九州市は大きく力入れてやるのだということを明確に打ち出した方が良いでしょう。

「メタバースなど新たな技術の活用を」

北九州市は、人がやらないびっくりするようなことやった方が良いと思います。メタバース、仮想空間を先行して北九州市でやってみたらどうでしょう。旦過市場などのリアル空間に加えて、仮想空間市場を北九州市で作って見せて、買い物を楽しめるようにする、或いは、アバターという人間が出ていろいろ活動する空間を作っても良いでしょう。

それから、ドローンはどうでしょう。これは、先行すれば、とても北九州市の生産性が上がると思います。ドローンの実験基地として、もう少し活発に受け入れていく可能性はあります。北九州はいろんな種類の工業もあれば住宅もあれば山もあれば川もあるので、そういう色々な条件の違うところがあるから、色々な実験ができるのではないでしょうか。例えば公共建築物の老朽化対策のチームでも採用できるでしょう。

「掲げる旗（言葉）は力強く」

一番大事なことは、どういう旗を掲げるかです。「稼げるまち」でも、いずれにしても、北九州市のイメージを変えて、ものすごく元気が出るような言葉にしないといけません。

リーダーの一番大事な条件は、「我々はどこに行くのだ。」ということを、みんなが「そうだ」、「それでいけるぞ」ということになるような旗を立てられるかどうかです。

この旗は、良い言葉、力強い言葉、みんなが「それだったら俺もやれるぞ」となるような言葉をいくつか並べて作らなければならないでしょう。

確かに色々課題はありますが、課題ばかり言われると、みんなしょぼんとなってしまいます。みんなを激励して前向きにしなければいけません。

例えば、合計特殊出生率が政令市の中でもトップクラスであることは、あまり知られていません。お年寄りの都市だと思われています。

それから、美味しいものも多いですね。そういう意味では、移住についてもとても有利であると言えるでしょう。